

1 学校教育目標

「21世紀を担う 心豊かな生徒の育成」

2 学校教育推進の視点

①安全・安心な南中に ②学習が充実した南中に ③心の通い合う南中に
④地域に根ざした南中に

3 総合的な自己評価

・「生徒も職員も登校することを楽しみに思える学校づくり」を目指し、全教職員による「自己肯定感・自己有用感」を大切にした指導により、生徒たちの「学校に行くことが楽しい」と思っている割合が上昇している。
・確かな学力の定着に向け「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に行い、「居場所のある学級」で「出番のある授業づくり」を実践し、生徒の「学びたいを引き出す授業」に取り組んだ。
・拡大校則検討委員会が3年目となった。校則の見直しの議論について学校だけでなく生徒・保護者・地域の方にも参加していただき、よりよい学校生活に向け協議する継続した取組が確立されてきた。
・勤務時間適正化に向け校時表の見直しを行い、また教職員も積極的に休暇を取得する等、「ゆとりある教育」の推進に向けた意識が高まっている。引き続きタイムマネジメントについての指導が必要である。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策	自己評価の妥当性
教育課程	・確かな学力を身に付ける学習指導	探求的で深い学びを意識した指導法を工夫している	B	<ul style="list-style-type: none"> 「授業はよく分かる」と87.8%の生徒が回答している。これからは学習指導の充実に向け、学習で躓いた生徒の支援方法について分析をし、考察していく必要がある。 各家庭に協力を得ながら、家庭での学習習慣の定着を図る。 道徳の授業では「対話による深い学び」をテーマにローテーション授業を行い、授業実践力を高めることができた。今後は地域や保護者の方にも道徳の授業を公開していきたい。 生徒が主体となり「校則の見直し」「体育祭の全校綱引き」「南陵祭」等を行った。引き続き生徒が主体・主役となって取り組む活動を充実させ、生徒の主体性の育成につなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動では行事を通して、生徒が主体となって取り組み、個々の成長が図られている。 家庭学習について「どうして勉強することが大切なのか。」家庭と連携して進めることが大切である。 ボランティア活動ができる場を増やしていただきたい。 開かれた学校づくりが推進されている。外部の方に学校の教育方針の見える化が進んでいる。 多様性といわれる時代である。他の学校の取組も参考にルール・教育方針を決めてほしい。 勤務時間の適正化に向けては努力されているようですが、仕事量に偏りがあり、見直す必要がある。 小中一貫教育の実践については担当者だけでなく、すべての教職員で推進すべきである。 いじめアンケートや教育相談等、生徒が悩みを言いやすい環境づくりができているように思う。 コミュニケーション教育については演劇的手法を取り入れるなど積極的な取組がなされている。 人権・環境教育はAを目指していただきたい。生徒たちに意識を持ってもらうため、旬の話題を議題にしてディスカッションしていただきたい。 危機管理についてはよくできている。 「朝読書」「ワゴンによる貸出」「校長文庫」など、読書活動に恵まれた環境である。引き続き推進していただきたい。
	・道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成が図られている	A		
	・英語遊び・外国語活動・英語科	「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能を総合的に育成している	B		
	・総合的な学習の時間	指導計画に基づいた指導を行い、評価方法を工夫改善している	B		
	・特別活動	学校・学年行事を通して、集団や生徒個々の成長が図られている 日常的な生徒会活動の充実を図り、生徒の自治能力を高めている	A		
学校運営	・開かれた学校づくり	教育方針や学校・学年・学級の様子を分かりやすく伝えている	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学校の教育方針や様子がよくわかる」では今年度も数値が上昇している。今後もオープンスクールや学校だより・学年通信等で学校の取組・生徒の様子等について発信していく。 小学校と連携し、中学校入学に向けて多くの教職員で引継ぎ事項を確認することで、新入生の中学校生活がスムーズに行われている。引き続き、小中一貫教育の効果的な取組を検証していく。 生徒との肯定的なかかわりを徹底し、教育相談等を実施することで、いじめ・問題行動の未然防止・早期対応につなげていく。 不登校生徒数は増加しているが「学校に登校する」という結果のみを目標とするのではなく、生徒の状況にあわせ「別室登校」「放課後登校」「支援センターとの連携」等、最適な支援を継続する。 演劇的手法を取り入れた授業実践は、普段話すことのない生徒同士が話す機会となり、非認知能力を高める取組となっている。 特別支援教育については、引き続き通常学級と特別支援学級の交流及び共同学習により、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ機会として充実させていく。 「不審者侵入時の対応」や「予告なしの避難訓練」を実施することで、子どもの安全を確保するためにどうすればいいか危機管理体制の整備を進めると共に、生徒たちに、自ら判断し自分の命を自分で守る力を身に付けさせる。 地区委員会で通学路について保護者から意見を聞き見直した。今後も生徒が安全に登下校できるよう交通安全教育を推進する。 健康教育（眠育・熱中症対策等）については、養護教諭が中心となり、掲示板や通信で積極的に生徒・保護者に伝えている。定期的に睡眠記録をとることが定着し、多くの生徒がリズムよく生活することができている。 「読書活動を取り入れた指導の充実に係る研究」の指定を受け、講師を招聘し「ビブリオトーク」の実践、「図書委員会のワゴンによる本の貸出」、「校長文庫」が設置され、生徒・教職員が本を手取る機会が増えた。今後も読書活動を推進させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや教育相談等、生徒が悩みを言いやすい環境づくりができているように思う。 コミュニケーション教育については演劇的手法を取り入れるなど積極的な取組がなされている。 人権・環境教育はAを目指していただきたい。生徒たちに意識を持ってもらうため、旬の話題を議題にしてディスカッションしていただきたい。 危機管理についてはよくできている。 「朝読書」「ワゴンによる貸出」「校長文庫」など、読書活動に恵まれた環境である。引き続き推進していただきたい。
	・勤務時間の適正化	勤務時間の適正化に向けて取り組んでいる	B		
	・引継ぎ連携システムの強化	小学校からの情報を有効に活用するなど、連携が機能している	B		
	・生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	問題行動の未然防止や早期発見、早期対応に心がけている	A		
	・職員研修の推進	研修の計画、推進体制、進め方が適切である	A		
	・危機管理体制の整備	実効性のある学校マニュアルの見直しを進めている	B		
課題教育	・非認知能力の育成	非認知能力を向上させる取組を行っている	B	<ul style="list-style-type: none"> 「不審者侵入時の対応」や「予告なしの避難訓練」を実施することで、子どもの安全を確保するためにどうすればいいか危機管理体制の整備を進めると共に、生徒たちに、自ら判断し自分の命を自分で守る力を身に付けさせる。 地区委員会で通学路について保護者から意見を聞き見直した。今後も生徒が安全に登下校できるよう交通安全教育を推進する。 健康教育（眠育・熱中症対策等）については、養護教諭が中心となり、掲示板や通信で積極的に生徒・保護者に伝えている。定期的に睡眠記録をとることが定着し、多くの生徒がリズムよく生活することができている。 「読書活動を取り入れた指導の充実に係る研究」の指定を受け、講師を招聘し「ビブリオトーク」の実践、「図書委員会のワゴンによる本の貸出」、「校長文庫」が設置され、生徒・教職員が本を手取る機会が増えた。今後も読書活動を推進させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケートや教育相談等、生徒が悩みを言いやすい環境づくりができているように思う。 コミュニケーション教育については演劇的手法を取り入れるなど積極的な取組がなされている。 人権・環境教育はAを目指していただきたい。生徒たちに意識を持ってもらうため、旬の話題を議題にしてディスカッションしていただきたい。 危機管理についてはよくできている。 「朝読書」「ワゴンによる貸出」「校長文庫」など、読書活動に恵まれた環境である。引き続き推進していただきたい。
	・ふるさと教育	生徒に豊岡の良さを学ばせる取組を行っている	B		
	・コミュニケーション教育	自分の考えを主張し、他者の考えを理解する場面を設定している	A		
	・キャリア教育	生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて進んで行く力を育成している	B		
	・体験活動	目的を明確にした体験活動を行っている	B		
	・人権教育	教科・道徳・総合等、全領域で人権尊重の精神の育成が図られている	B		
	・特別支援教育	生徒個々の課題を明確にした指導計画を作成し、実践されている	B		
	・環境教育	教科・道徳・総合等、各領域で環境教育への取組を進めている	B		
	・安全教育・防災教育	避難訓練や交通安全教育が適切に行われている。	A		
	・健康教育・食育 体力づくり・運動遊び	眠育を含め、望ましい生活習慣の育成を図る取組を進めている	A		
・読書活動	読書活動を推奨し、生徒の読書活動の向上に努めている	A			

※上記の評価の観点は市統一とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。

※評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。